

科目名（単位数）		科学と人間生活（2）					
対象年次		期別	必要面接数	レポート数			
原則1年次		通年	8	6			
科目の概要	自然と人間生活とのかかわりや、人間生活に浸透した科学技術に興味・関心を抱かせ、身近な事象に関する観察・実験を通して、科学技術が人間生活に果たす役割を理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、今後の自然と人間生活との持続的な関係や、科学技術のあり方を認識・考察する力を養う。						
科目の目標	自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。						
年間学習計画・学習のねらい	学習内容	到達目標			スクーリング回数	レポート回数	試験範囲
	科学技術の発展	・科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にしてきたことに貢献し、社会の変化に影響を与えてきたことを、身近な科学技術の例から理解する。				1	前期
	材料とその利用	・プラスチックの種類、性質、および用途について理解する。 ・金属の種類、性質、および用途について理解する。			1		
	衣料と食品	・わたしたちの身のまわりにある繊維の種類と、基本的な性質について理解する。 ・食品中の栄養素と生体内での役割について学習し、栄養素が取りこまれる過程について理解する。			2	2	
	熱の性質とその利用	・熱の性質やエネルギーの変換と保存、有効利用について理解する。			3	3	後期
	光の性質とその利用	・光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。			4		
	生物と光	・植物の生育と光との関係、動物の行動およびヒトの視覚と光とのかかわりについて理解する。			5	4	
	微生物とその応用	・多様な微生物と生態系でのはたらき、微生物と人間生活とのかかわりについて理解する。			6	5	
	身近な自然景観と自然災害	・日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて理解する。 ・火山について、地震の発生のしくみについて理解する。 ・河川のはたらきや海水のはたらきによってどのような形が形成されるか理解する。 ・自然災害について理解し、防災について考えることができる。			7	6	
	身近な天体と太陽系における地球	・太陽系の中心である太陽と、太陽系を構成する天体の概観について理解する。 ・天体の動きや太陽暦について理解する。			8		
評価方法	年度末の成績評価は下記の通り行う。 レポート：50% スクーリング：15% 試験：35% レポート：教科書や学習書を活用し、取り組むこと。 スクーリング：年間計画に従い、各自で予習・復習に取り組むこと。 試験の得点：追試験の得点は、定期試験の得点と同等には扱わない。						
単位の習得	①レポート：締め切りまでに所定のレポートを提出し、合格すること。 ②スクーリング：年間8時間出席すること。 ③試験：前期試験、後期試験を受けること。						
使用教科書	第一学習社「科人304 科学と人間生活」						
学習上の留意点	レポートは教科書等をよく調べおこなうこと。						